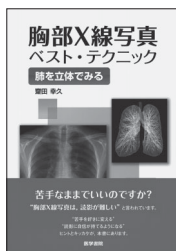


書評

[評者]

芦澤和人

長崎大学大学院教授・臨床腫瘍学/長崎大病院がん診療センター・センター長



胸部 X 線写真ベスト・テクニック 肺を立体でみる

齋田幸久 著

●B5 頁 152 2013 年

定価：本体 4,000 円＋税

[ISBN978-4-260-01768-8]医学書院刊

齋田幸久先生のご執筆による単行書『胸部 X 線写真ベスト・テクニック—肺を立体でみる』が刊行された。わが国には、胸部 X 線写真に関する数多くの教科書が存在するが、本書は他書とは異なる視点で執筆されている。すなわち、本書のサブタイトルにあるように、胸部 X 線写真の読影において「肺を立体的に捉える」ことに焦点が置かれている。巻頭の「本書の目指すところ」に記載されているが、「1 枚の胸部 X 線写真で奥行きが見えること、あるいは、それが実感できること」が到達目標である。

その目標を達成するために、CT の横断像のみならず 3D 画像や MPR 画像が適切に配置されており、読者が胸部 X 線写真上、「肺を立体でみる」ことを助けている。

さらに、きわめて明快なシェーマも適宜挿入されており、単純 X 線所見の成り立ちが理解しやすい。胸部 X 線写真はアナログからデジタルに移行してきたが、使用されているすべての胸部 X 線写真は、きわめて画質がよく、かつ大きく提示されている。また解説の文字を極力少なくしてあるため読みやすい。私は本書を 1 日で通読してしまった。著者の豊富な知識と経験に基づいた完成度の高い専門書である。

本書は I～VII 章で構成されているが、基礎編 (I～III 章) と実践編 (IV～VII 章) に大別することができる。基礎

編では、正常画像解剖と肺内・肺外病変の捉え方について豊富なシェーマを交えてわかりやすく解説されている。後半の実践編は 4 つの章からなり、各章に 10 例の厳選された症例が並んでいる。Q&A の演習形式になっているので、ぜひ 1 枚 (一部側面像も提示) の胸部 X 線写真で肺を立体的に捉えることにトライしていただきたい。もし、解答で使用されている 3D 画像や MPR 画像がイメージできるようになれば、著者の意図する到達目標に達したといえよう。

近年の画像診断機器の進歩は目覚ましく、64 列以上の MDCT が多くの施設で標準となってきた。胸部領域の画像診断においても MDCT は不可欠な検査法となったが、安価で簡便な胸部 X 線撮影が第 1 選択の検査法であり、その重要性は何ら変わっていない。胸部 X 線写真の読影能力を高めるためには、CT 所見を胸部 X 線写真にフィードバックする作業が重要である。この作業を繰り返すことで、単純 X 線所見の成り立ちの理解が進み、さらには「肺を立体でみる」習慣が自ずと身に付いてくる。前述したように、CT 画像が多く提示された本書は、まさにその作業のお手本となる教科書である。胸部 X 線写真の読影にあたる若手の放射線科医はもとより、呼吸器疾患の診療に携わる内科医、外科医、総合診療医などが必読されることを期待する。